第２次愛荘町地域福祉活動計画中間評価について

（期間　平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月）

愛荘町地域福祉活動計画推進委員会
社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会

目　　次

- １ページ・・・・　計画概要・評価方法
- ３ページ・・・・　中間評価　総括
- ５ページ・・・・　見守りネットワークプロジェクト
- ９ページ・・・・　くらしサポートプロジェクト
- １２ページ・・・・　ボランティアセンタープロジェクト
- １５ページ・・・・　福祉教育プロジェクト
- １９ページ・・・・　地域を守る災害支援プロジェクト
- ２２ページ・・・・　プロジェクトにかかる社会福祉協議会事業・活動評価

第２次愛荘町地域福祉活動計画　中間評価

１．計画概要

第２次愛荘町地域福祉活動計画は、住民自身が主人公となり、安心して生活できる住みやすい福祉のまちづくりを進めることを目的に、身近な福祉活動に参加し、話し合い、取り組むことにより魅力ある福祉活動をみんなで築き上げるため、５つの基本計画（プロジェクト）により推進しています。

★計画期間

平成２９（2017）年度～令和３（2021）年度（５年間）

★計画体系

理念

「みんなで進める　笑顔あふれる福祉のまちづくり」

目標

「私たちが参加する　魅力ある福祉活動を　みんなで話し合い取り組みます」

基本計画・取り組み内容

①見守りネットワークプロジェクト

a. 地域の見守り活動に参加する人を増やします
b. みんなが出合い集まる場をつくります
c. 住民主体の見守り活動をさらに充実していきます
d. 地域みんなのつながりを広めたネットワークをつくります

②くらしサポートプロジェクト

a. 日常の困りごとに素早く対応できるしくみをつくります
b. 一人ひとりの状況に合わせた地域支援のしくみをつくります
c. 不安や困りごとを抱える方の居場所をつくります

③ボランティアセンタープロジェクト

a. 参加のきっかけをつくります

b. 活動の場を広めます

c. ボランティアをつなぐ・調整する場を充実します

d. ボランティア情報などの広場をつくります

④福祉教育プロジェクト

a. 子どもたちが福祉に興味を持ち、理解する機会をつくります

b. 地域で福祉を学ぶ場をつくります

c. 不安や困りごとを抱える方たちとお互いに理解し合う機会をつくります

⑤地域を守る災害支援プロジェクト

a. 災害支援ボランティア活動を充実します

b. 災害時要配慮者（当事者）と一緒に地域防災について考えます

2. 評価内容と方法

①プロジェクごとの取り組みの評価

（評価内容）

A　年度ごとの取り組み内容や活動状況・課題

B　計画達成（2年後）にむけての目標や取り組み内容

②プロジェクトと連動する社会福祉協議会事業・活動の評価

A　年度ごとの実績

B　3年間の成果

成果については、計画の目標である次の2点に着目して評価をおこなう。

●参加　人数や利用者数の増減、自治会数や開催回数・場の増減

●魅力ある福祉活動　事業を推進するための工夫したこと、実績を踏まえて検討したこと

C　各事業の達成状況

評価項目については次の通りとする。

◎　引き続き事業活動を取り組む

○　事業活動を継続して取り組むが、内容や方法に関して見直しが必要

△　事業活動の目的や内容の見直しをおこなう

３.中間評価　総括

第２次愛荘町地域福祉活動計画では、５つの基本計画（以下、プロジェクトと言う。）ごとに住民、関係機関・団体、町内各種事業所・活動者が参画する推進体を設置しました。

この推進体では、プロジェクトの目標達成にあたり、それぞれの取り組み内容を一つずつ目的や課題から丁寧な協議を重ね、新たな取り組みへの提案や事業活動の展開、さらには、現在取り組む事業活動が充実するなどの成果が見られました。

見守りネットワークプロジェクトでは、ネットワークを拡充する意識をみんなに浸透する取り組みを進めました。くらしサポートプロジェクトでは、福祉課題に対応する体制のイメージ化に取り組みました。ボランティアセンタープロジェクトでは、災害ボランティアセンターの設置運営を住民や関係者と共に考え実際の訓練を実施できました。福祉教育プロジェクトでは、福祉教育の推進を図るために学校・企業・地域と密接な関係性を築くことができました。地域を守る災害支援プロジェクトでは、地域の活動者の災害・防災への課題から地域住民と話し合い、具体的な取り組みを実施することができました。

また、各プロジェクトでの取り組みが進む中、それぞれの取り組みを協働や連動して取り組むことによりさらに効果が現れることが期待できるものも見えてきました。

その一つには、見守りネットワークプロジェクトの取り組みである「見守りネットワークの形成」、くらしサポートプロジェクトの専門機関との連携や、ボランティアセンターから呼びかけた福祉活動への参加拡充、福祉教育を通じた住民への福祉の啓発活動、地域を守る災害支援プロジェクトの地域が主体となる取り組みのしくみ・活動づくり等の取り組みを、住民が主体となり関係機関や団体・企業等が連携・協働することで「ネットワークの形成」がより強固なものになります。

また、地域を守る災害支援プロジェクトに関連する取り組みからは、見守りサポート会議を中心とした自治会単位での取り組みやくらしサポートプロジェクトで進めるくらしの困りごとを抱えた方々（当事者）への災害時での支援、災害ボランティアセンターの運営、子どもたちや住民・企業への福祉体験・学習機会を通して防災・減災の体験など、各プロジェクトで「災害・防災」は共通するテーマであることが明確となりました。

このように各プロジェクトによる取り組みの推進とあわせて、計画全体として各プロジェクトの連携・連動した取り組みごとに整理し、新たな枠組み（テーマや課題）の取り組みを意識して進めていくことが今後重要となっています。

一方、社会福祉協議会では、プロジェクトと連動した事業活動に取り組み、新たな取り組みを具現化することで、これまでに地域福祉活動と関わりが少なかった方々（関係機関・団体・事業所・企業・住民）と活動を通して参加いただくことができました。

また、計画推進にあたっては、社協職員全体で取り組みを進めるため、プロジェクトごとの職員チームを設置して町民の皆様と一緒に計画を推進する体制を構築しました。

今後は、各プロジェクトの計画達成期間（２年間）における達成目標に向けて取り組み内容をさらに進めるほか、地域福祉を推進するうえでの新たな課題解決に向けて計画的に取り組みを進めていきます。

4.基本計画（プロジェクト）の評価

見守りネットワークプロジェクト

３年間の取り組み報告（２０１７年～）

このプロジェクトでは
「地域に目を向け、お互いの変化に気づくことができる、さりげなく継続的な見守り」が、進められるように「みんなが気軽にできる、さりげない見守りを広げる」ことを目的にしています。

地域の居場所活動（サロン）

２０１７年～

プロジェクト推進会議

見守りを進めていくために大切なこととして

①私たちが SOS に気づく！！

②困っている方が SOS を発信できる！！

取り組み内容（プロジェクト推進体）

２０１８年　モデル地区を設置して、地域の声を聴きます。（亀原・斧磨）

２０１９年　モデル地区をどんどん増やしていきます。

・見守りサポート会議として取り組みを進める。
・数値目標の設定決めよう。

地域の生活支援活動（目加田）

中心となる活動

見守りサポート会議

自治会単位の小地域での見守りネットワークの中心的な取り組み。

２０１９年～

自治会での活動を進める

①先進事例を紹介する。
②自治会の課題に応じた研修・体験学習の場づくり。
③（仮称）子ども民生委員児童委員の取り組みをモデル事業として実施。

亀原見守りサポート会議

斧磨見守りサポート会議

２０２０年～

見守りサポート会議を中心に、見守りネットワークに向けて、こんな活動を進めていこう。

活動のポイントは
★「楽しい・おいしい・おしゃれ」
★「粘り強く継続する」

【新たな取り組み】　居場所づくりの活動
ひとつの地域（自治会）だけでは対応が難しい課題を近隣地域で考え、場づくりやしくみをつくります。

【大切な活動として】
訪問する活動は重要！！
町民の見守り意識を高めて、一人ひとりが「気をかけ・声をかけ」る「きっかけ」として、訪問活動を広めていきたい。

このプロジェクトを進めていく上での課題

●見守りの対象者は「何に困っているのか？何が必要なのか？」を把握することが必要。
●誰もが SOS を出しやすい環境をつくらないと・・・。
●人間関係が、なかなか広がらないなぁ。

「見守りネットワークプロジェクト」3年間のまとめ
地域に目を向け、お互いの変化に気づくことのできる、さりげなく絶え間ない見守り」

◇1年目（平成29年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
★プロジェクトの取り組みをイメージ化する。 ★町内の見守り活動の整理。	★プロジェクトの目的を共有しイメージづくりをおこなう。 ＊SOSを発信すること、SOSをキャッチすること。 ★愛荘町の地図上に各自治会で取り組まれている活動を見える化する。 ★みんなが気軽にできる活動の検討。 ＊あいさつは誰でもできる活動であり町内で運動として広めることはできないか。 ＊啓発グッズを作成してみてはどうか。	★取り組みとして、「あいさつ運動」や「啓発グッズ」の作成などがアイデアとして出てきたが、一時的な企画で終わってしまわないかとの不安がある。継続的なしくみとして見守りの意識を高めることが大事である。

◇2年目（平成30年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
★具体的な取り組み内容の検討。 ★地域課題の聞き取り。	★モデル地域を設定して聞き取りをおこなう。 ＊斧磨自治会、亀原自治会 ＊聞き取り内容の検討を実施。 ★地域課題の整理・それに対する活動の企画。 ＊モデル地域の聞き取り内容から、ニーズの整理や対応する活動について検討をおこなう。	★将来的な孤立に関する課題・移動手段に関する課題。（旧来の自治会） ★子どもたちの通学に関する課題。災害・防災に関する課題。（新興住宅の自治会）

◇3 年目（令和元年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
★聴き取り地域を増やす。 ★昨年度に引き続き地域への関わりを進め、課題への対応に向けた活動を提案していく。 ★見守りサポート会議の目的や方法を検討する。	★見守りサポート会議で町内の先進事例の紹介をおこなう。 ＊亀原自治会に豊満地域の取り組み紹介をおこなう。 ＊斧磨自治会に目加田地域の取り組み紹介をおこなう。 ＊長野新町自治会へ、災害・防災を切り口にした地域福祉活動の提案をおこなう。 ＊メイタウン島川自治会 　災害・防災関連の話を中心に、地域の状況や課題の聞き取りを実施 ★子どもを中心とした啓発活動の検討。 ＊子ども民生委員・児童委員または子ども福祉推進委員等の企画をする。子どもたちへの福祉意識向上を目指す取り組みとして進めていきたいと考えたが、取り組みの実施には至らなかった。	★自治会では多くの会議や行事があり、新たに福祉についての話し合いの場を調整することが難しい。 また、区長等の自治会役員は多忙なため連絡調整が難しい。

◇今後の取り組みに向けて

4年目の目標と取り組むべきこと	5年目（最終年度）の目標（到達点）	課　　題
●見守りサポート会議の未実施自治会への働きかけ。 ●（仮称）子ども民生委員・児童委員の取り組みの企画とモデルの実施。	●見守りサポート会議を町内全自治会で開催する。 ●複数地域にまたがる取り組みの検討とモデル活動の実施。	●複数地域にまたがる取り組み ・やらされ感が無い「楽しい」場をつくる。 ・小さな自治会などでは、自治会単位の取り組みは難しい。 ・移動手段や会場の手配。 ●子ども民生委員・児童委員 ・親の理解。 ・「楽しい」場を作る。 ・ただのイベントにならないように。

【プロジェクトを進めていく上での課題】

●見守り対象者に「何が必要なのか」を把握することが大切である。
「当事者の思い」と「支援者の思い」の違いがあっては進まない。

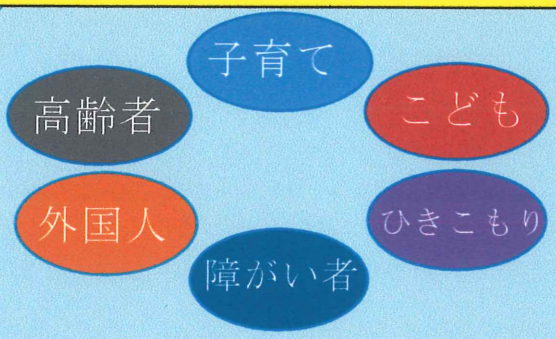
●SOSが出しやすい環境づくり。
いざ困ったときに言いにくいと誰も気づかない。
自分は大丈夫との思いから支援を拒否される。

●人間関係が広がらない。
気を使いすぎているのか？適度なおせっかいでもあればコミュニケーションが広がるのではないか。
SNSが広がっているが、顔を合わせて直接話すことが大切である。

くらしサポートプロジェクト

「地域の方々の困りごとに気づき、「つなげる」しくみと「くらしにくさ」を抱える方々の仲間づくり」をテーマとし、専門職とのつながりから、住民の方々とともに行う活動づくりを目指しています。

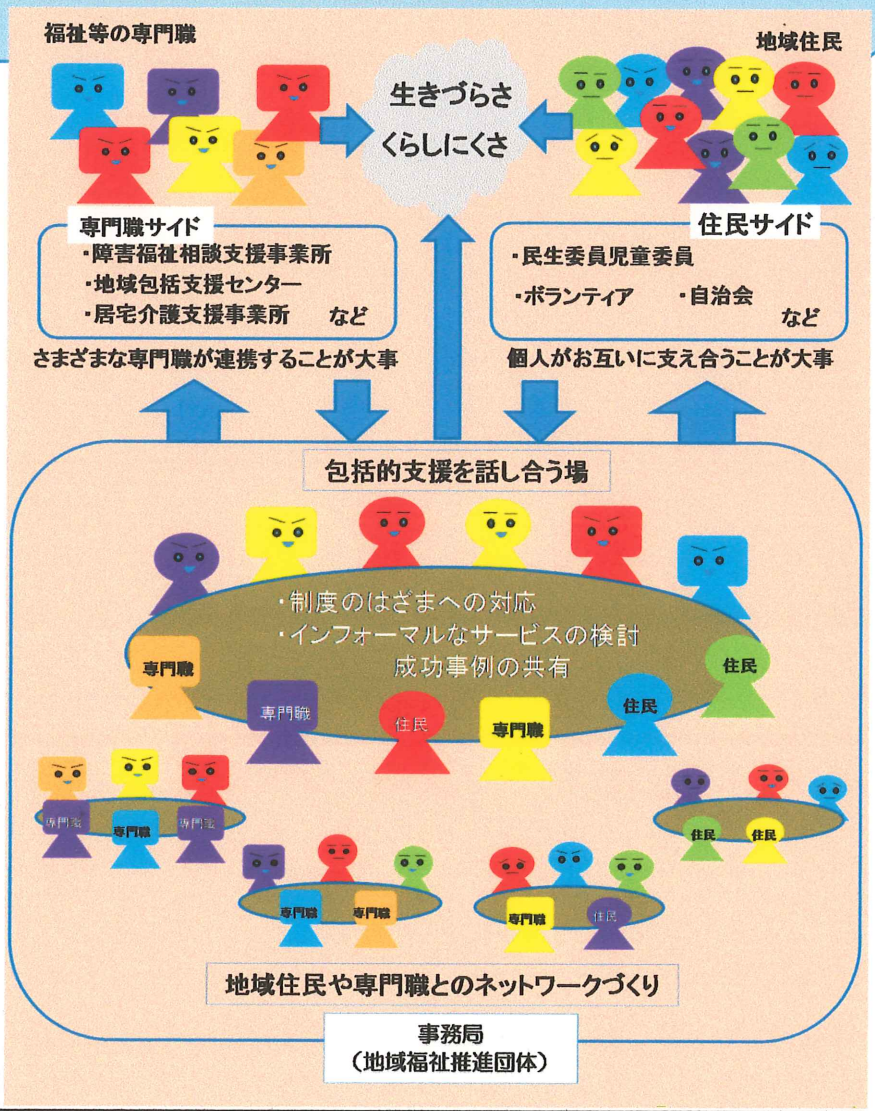
2017年：「くらしにくさ」・「生きづらさ」を明らかにする



制度のはざまに課題があることや、少子高齢社会や地域の構造の変容により課題が生じていることを確認した。

制度のはざまの対応、課題を解決するための体制づくりが必要

2018年：愛荘町内で福祉課題に対応する体制づくりのためのイメージ作り



2019年「愛荘町福祉機関地域連携会議」を開催

- お互いのことを知る
- 課題の共有
- つながり作り

このイメージ図を具体化できる成功事例を積み重ね、しくみとなることを目指した取り組みを実施します

「くらしサポートプロジェクト」3年間のまとめ

地域住民の困りごとに気づき、「つなげる」しくみと「くらしにくさ」を抱える方々の仲間づくり

◇1年目（平成29年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
「くらしにくさ」のもととなる「生きづらさ」とは何かを知ろう	各分野の専門家から、それぞれの立場から見た現状や課題についての話を伺う ・NPO ぽぽハウス、愛荘町こども支援課、滋賀県立精神保健福祉センターひきこもり支援センター、湖東健康福祉事務所、サンタナ学園、県立愛知高等養護学校	・「住民の連携」「多職種連携」それぞれを結び付けたネットワークのしくみがない。 ・人々の「生きづらさ」を知るとともに、人々に「広める」「伝える」意識が浸透していない。

◇2年目（平成30年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
仕組み作りについて、共通のイメージを持てるようにしよう 自分たちの知らないことをもっと知ることができるようにしよう	障害者の高齢化をテーマとして 愛荘町内の障がいを持つ高齢者についてのデータ作成（各種手帳交付と介護認定の人数についてのデータ化） しくみ作りのイメージ図の作成	・各制度それぞれの相談支援者のできる範囲は限られている。その範囲で対応できないところをどうするのか。 ・相談支援者のネットワーク作りが必要。 ・問題解決に向けた体制作りが必要。 ・住民から直接聞く機会と、住民に直接伝える機会を持つこと。

◇3年目（令和元年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
日常の困りごとに素早く対応できるしくみ作りのための一歩を踏み出そう	愛荘町福祉機関地域連携会議の開催 障がい者の高齢化、障がいを持つ高齢者をテーマに相談支援専門員（障がい者福祉）、ケアマネージャ（介護保険）が互いの経験等を話し、課題や対応策などを検討する	・テーマが広く、「くらしサポート」という抽象的なものに対しての話し合いが続いた。そのため、委員相互のすり合わせが難しく、考えを伝えることが難しかったが、机上での話し合いに終わらせるものではないことを確認する。 ・プロジェクトの会議と地域連携会議に出席することとなり、委員負担を大きい。

◇今後の取り組みに向けて

4年目の目標と取り組むべきこと	5年目（最終年度）の目標（到達点）	課題
・イメージ図の具体化に向けての取り組み ・居場所づくりに向けてのアクション モデル地域での活動開始		・委員の変更や交代の際にも継続した取り組みをしていくことが難しい。 ・新たな活動に向けての人材確保と資金調達。

★プロジェクトを進めていく上での課題

・明確な取り組みがわかりにくかったことや、抽象的なテーマであったので具体的に検討すべきことを絞るとよいのかどうか難しかった。

・推進委員の交代や継続

・新たな活動に向けての人材確保と資金調達

ボランティアセンタープロジェクト

ボランティアセンター運営委員会
３年間の取り組み

ボランティア登録状況

H28 年度
個人ボランティア：413 名
ボランティアグループ：45 グループ
災害支援ボランティア：8 名
H29 年度
個人ボランティア：443 名
ボランティアグループ：41 グループ
災害支援ボランティア：16 名
H30 年度
個人ボランティア：496 名（53 名増）
ボランティアグループ：45 グループ（4 グループ増）
災害支援ボランティア：20 名（4 名増）
子どもボランティア登録：10 名
R1 年度（R2 年 1 月 31 日時点）
個人ボランティア：512 名（16 名増）
ボランティアグループ：45 グループ(増減なし)
災害支援ボランティア：21 名（1 名増）
子どもボランティア登録：13 名（3 名増）

♡地域の福祉課題に対応した活動づくり

①生活支援ボランティアの育成
②災害ボランティアセンター設置運営訓練

♡ボランティアの参加を目指した活動

①ボランティアカフェ（交流会）
②チョボラ体験（きっかけづくり）

★町生活・介護支援サポーター研修への参画

★災害ボランティアセンター設置運営についての協議
★災害ボランティアセンターの訓練
★災害支援ボランティアの養成

♡ボランティア情報収集や発信

①ボランティアセンター通信の発行
②ボランティア登録者への定期的な情報発信
③他市町での災害支援ボランティア活動の情報発信

♡ボランティアをつなぐ・調整する

①ボランティア登録者への活動状況調査
②他市町での災害支援ボランティア活動の支援活動やコーディネート

【これから進めていくこと】２０２０年度～２０２１年度

♡ボランティア活動の啓発を進めるために、地域での活動や子どもたちとの活動を広めていきます！！

①ボランティア活動の仲間づくり（サークル活動）の機会をつくります
②ボランティアセンターの啓発やイメージアップを進めます
③移動ボランティアカフェなど地域での交流や啓発を進めます
④災害ボランティアセンター設置運営訓練を行います
⑤生活支援ボランティアの養成を進めます
⑥子どもたちへのボランティア体験・啓発の充実

地域の皆様とボランティア活動の楽しさを共有し、活動を仲間の輪を広げていきます！！

プロジェクトを進める中での課題

●若い世代の活動への参加を広める。
●活動や組織の継続などを考えると、有償のボランティア活動についても考えていく必要がある。
●ボランティアに対する認識は多様でみんなが同じ考えでは無い。
●ボランティア＝奉仕のイメージが大きい。

「ボランティアセンタープロジェクト」3年間のまとめ

テーマ【ボランティアの参加と活動が、充実する魅力ある福祉の場づくり】

◇1年目（平成29年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
地域が求めるニーズに対応した新しいボランティア活動づくりをしよう。	●グループワークを通して高齢者の日常生活での困りごとを抽出するとともに、生活支援ボランティアを活動としていくために先進地研修を行った ●新しいボランティア発掘のため「ちょボラ体験事業」「ボランティアカフェ」さらにはボランティアコーディネートを推進するための活動実態調査の実施	●生活支援ボランティアの人材発掘と人材育成が必要。 ●ボランティアの情報の発信の仕方や新たな活動者の発掘。

◇2年目（平成30年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
多くの住民がボランティアに参加するための機会・場をさらに充実させ取り組んでいく	●生活支援ボランティア活動の組織化に向けて地域包括支援センターと連携し生活支援サポーター登録者の研修に参画した ●災害ボランティアセンター設置に向けて住民が主体となる災害ボランティアセンターの役割を中心に行政とも一緒に話し合いを行った	●生活支援は、自治会でも課題となっており住民同士の助け合いで出来る活動としてどのように進めることができるのか、検討が必要。 ●災害ボランティアセンターについては、各関係機関や行政との連携が大切。 ●災害が発生する前から連絡協議会などと協議ができる場が必要。

◇3年目（令和元年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　　題
住民にボランティアをわかりやすく伝えていき、ボランティアに参加する人を増やすための、事業や活動等の企画を進める	●ボランティア活動・ボランティアセンター啓発活動やボランティア活動者の交流の場の必要性について取り組みや工夫を話し合う ●災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施と設置運営マニュアル作りの開始	●ボランティアセンターの名称が固いイメージがある。今の時代にあった名称に変更してはどうか。 ●単発の災害ボランティアセンター設置運営訓練で終わらず継続実施が必要。

◇今後の取り組みに向けて

4年目の目標と取り組むべきこと	5年目（最終年度）の目標（到達点）	課　　題
●災害ボランティアセンターのしくみづくりを進める ●生活支援に関するボランティアの養成・組織化 ●子どもたちへのボランティア体験・啓発をさらに充実する ●移動ボランティアカフェなど、地域へ出向きボランティアの交流や啓発活動を進める	●ボランティアを意識しない集まる場を作って、若い方のへのアプローチを進める ●ボランティアセンターに親しみを持っていただければとの思いで愛称など考える ●仲間づくりや交流の場をつくるしくみを考える	●新たなボランティア活動者の発掘。（若い世代） ●ボランティアセンターをどのようにして啓発して住民の方に関心を持ってもらいどう広げていくか。 ●災害が発生する前からの協議会などの設置と協議の場の持ち方。 ●小学生だけではなく、中学生高校生への働きかけ。

●ボランティアセンター運営委員会（プロジェクト）を進めていく上での課題

・新しいボランティアサークルができない。若い方がボランティアサークルを作ることが少ない。若い世代へのつなぐ機会や場がなくなった。
・今までのサークルのボランティアは高年齢化している。
・ボランティアの意識が感じられない。地域から湧き上がってくるような啓発が大事。
・ボランティアに対する認識は人それぞれである。自分ではボランティアとしてではなく、自分の楽しみ・喜びのための活動であり、見る人が変わればそれがボランティアと言われる。「誰もが参加する」を進めるためには、多様な考え認識があることを踏まえる必要がある。
・ボランティア＝奉仕のイメージが強い。
・なんでも登録制にすると「がんじがらめ」になってしまうイメージがある。
・ボランティアは「楽しい」だけではないこともある。
・個々での活動が増えている中でつながりが薄い。個々の活動を重なり合うような仕掛けができればよい。
・これからのボランティア活動や組織を維持していこうと思うと「お金」は大切なキーワードである。支え愛ポイントもあるが、活動維持までにはつながっていないように思う。無償だけではなく、活動を継続するための「有償」の部分も考えていく必要がある。これからの新しいボランティアの姿ではないか。

福祉教育プロジェクト

★このプロジェクトでは・・・
最終目標を「学校・地域・企業・当事者など、すべての方が関わる福祉教育」として、土台となる「福祉教育に関する社協の体制（コーディネートなど）」、「横のつながりづくり（社協・学校・地域・企業などの連携）」を意識した取り組みを進めています。

最終目標

**学校・地域・企業・当事者など
すべての方が関わる福祉教育**

令和元年度

「大人への福祉意識を高める取り組み」を進めていこう。

↓

「生産年齢世代の福祉への関心と活動参加への働きかけ」を進めていくには？

↓

「社会貢献活動などの取り組みについて」
企業への訪問聴き取り調査を実施!!

今後進めていくこと

①地域・住民のニーズと企業の活動を結びつけた取り組みを考え、モデル的に進めてみよう。
②「不安や困りごとを抱える方たちとお互いに理解し合う機会」の取り組みを当事者の声・目線で考えよう。

福祉教育の目的・伝える内容

「みんなの命がかがやく、支え合えるしあわせな地域づくりを目指して、福祉教育を行なっています」

平成29年度

福祉教育の目的・プロジェクト推進イメージを固めよう。

↓

まず、「子どもたちを中心においた学校での福祉学習への取り組み」を進めていこう。

↓

各学校の福祉学習の取り組み状況を調査。
学校への聴き取り訪問に向けて質問内容を考えよう。

平成30年度

町内各学校への聴き取り訪問
福祉学習現場の視察

↓

学校のプログラム・先生に余裕はない。
今実施されている学習にどう関わっていけるかがポイント!!

↓

取り組みやすい・わかりやすい
福祉学習支援メニューの作成!!

学校・地域・企業・当事者等と気軽に
連携・意見交換のできる関係をつくろう!!

土　台

●福祉教育に関する社協の体制（コーディネートなど）
●横のつながりづくり（社協・学校・地域・企業などの連携）

プロジェクトを進めていく上での課題

●福祉教育の範囲が広いため、取り組みの区切り方が難しい。
●新たな取り組みに対する学校・地域・企業の壁のような抵抗感。

「福祉教育プロジェクト」3 年間のまとめ

「みんなの命がかがやく、支え合えるしあわせな地域づくりを目指して、福祉教育を行なっています」

◇1 年目(平成 29 年度)

目　標	取組み内容・活動状況	課　題
●福祉教育の目的、プロジェクトの推進イメージを固める。 ●現況の福祉学習を把握する。	●福祉教育の目的、プロジェクト推進のイメージを検討・共有する。 ・福祉教育の目的・伝えていく内容を定める。 「みんなの命かがやく、支え合えるしあわせな地域づくりを目指して、福祉教育を行なっています」 ・プロジェクト推進のイメージ図を作成する。 ●各学校・地域での福祉学習の現況を把握。 ・各学校の「総合的な学習全体計画」資料、本会のコーディネート状況等をもとに現況を共有する。 ・各学校への聴き取り訪問に向けての質問内容を検討する。 ●各学校が実施する福祉学習の調整・指導を行う。	●学校・地域・企業・社協等の横のつながりが薄い。 ●新しい取り組みに対する学校・地域・企業の強い抵抗感。

◇2 年目(平成 30 年度)

目　標	取組み内容・活動状況	課　題
●学校の取り組み・ニーズ・課題の聴き取りを行う。 ●学校の取り組みの把握・整理・見える化。 ●既存の福祉学習支援メニューをリニューアルする。	●町内各学校への聴き取り訪問を行う。 ●町内各学校の福祉学習の取り組みを把握・整理・見える化を行う。 ・福祉学習現場へ推進委員が視察を行う。 ・「社協職員が指導・調整している」、「学校が独自で指導・調整している福祉学習」を分類した一覧表を作成する。 ・福祉学習の取り組みをまとめた映像を作成する。 ●既存の福祉学習支援メニューのﾘﾆｭｰｱﾙを行う。 ●各学校が実施する福祉学習の調整・指導を行う。	●各学校によって福祉学習のボリュームに違いがある。働きかけ・指導など本会職員の負担。 ●学校のプログラム・先生に余裕はない。今、実施されている学習にどう関わっていけるかがポイントである。

◇3 年目（令和元年度）

目　標	取組み内容・活動状況	課　題
●「大人への福祉意識を高める取り組み」を検討する。 **●企業の取り組みを調査する。**	**●「大人への福祉意識を高める取り組み」を検討する。** ・生産年齢の世代への関わり・働きかけの手法を検討、企業の社会貢献活動等の取り組みを把握するところから進める。 ・企業への聴き取り訪問に向けての質問内容を検討する。 **●企業への聴き取り訪問調査を行う。** ・㈱平和堂アモール愛知川店、㈱ダイナム滋賀愛知川店への社会貢献活動等を中心とした聴き取り訪問調査を行う。 **●各学校を訪問し、新・福祉学習支援メニューの配布・PR を行う。** **●各学校が実施する福祉学習の調整・指導を行う。** **●福祉教育連絡会議を開催する。** ・各学校の福祉学習担当教諭に招集いただき、今年度の福祉学習の振り返りを中心とした意見交換を行う。	**●大人への福祉啓発の手法が難しい。** **●企業とのつながり・接点が少ない・薄い。** **●企業の取り組み調査後の活用方法。**

◇今後の取り組みに向けて

4年目の目標と取り組むべきこと	5年目(最終年度)の目標(到達点)	課　題
●企業とのつながり・関係強化を引き続き進める。 ●地域・住民のニーズと企業の活動を結びつけた取り組みをモデル的に実施する。 (例) ①「ダイナム」と「地域のサロン」 ・社員さんが地域のサロンに出向き、レクリエーション(ピンボール・的当て)を行う。 ・廃棄前のお菓子等の景品を地域の活動に提供いただく。 ②「平和堂」と「障がい当事者グループ」 ・平和堂を利用される聴覚障がいのある方への接客を想定して、「手話サークルゆびゆり」が社員に対して手話講座を行う。 ●各学校への福祉学習のサポート・強化を引き続き進める。	●不安や困りごとを抱える方たちとお互いに理解し合う機会をつくる。 ・当事者の声・目線を尊重した取り組み。 ●学校・地域・企業等と気軽に連携・意見交換のできる関係をつくる。	●企業訪問調査の結果を活かし、「生産年齢世代の福祉への関心と参加への働きかけ」に向けた取り組みの手法。 ●「福祉教育」という範囲の広い分野の中で、到達点の定め方が難しい。

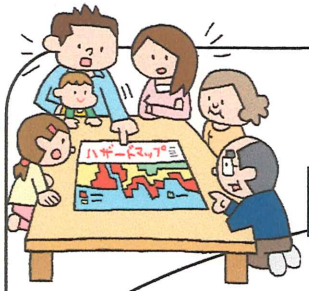
◇プロジェクトを進めていく上での課題

・福祉教育の範囲が広いため、取り組みの区切り方が難しい。

・新たな取り組みに対する学校・地域・企業の強い抵抗感。

地域を守る災害支援プロジェクト「３年間の取り組み」

毎年、日本の各地で甚大な被害が発生している「自然災害」。私たちの住む町も、いつ起こるかわからない中で、「私たちが取るべき行動は？」「日頃からやるべきことは？」をみなさんと考えながら、「災害時に誰も見逃さない」「みんながみんなのことを考えて避難行動ができる地域」を目指して、愛知川ニュータウン自治会と松尾寺南自治会をモデル地区として設置し、「福祉の視点」から地域防災について取り組みを進めています。



プロジェクト推進会議
地域の１０年後、２０年後のことも考え、今できることから進めていこう！

モデル地区の現状

愛知川ニュータウン自治会

住民同士の付き合いが希薄
「あいさつする程度」
「住民情報がわからない」
水没想定地域であることを知らない

話し合う場がない

お互いさまの関係

松尾寺南自治会

昔からの農村地域なので、
世帯情報はある程度わかる

災害だけでなく、他の課題も多い
「防犯対策」「交通安全」「鳥獣被害」

高齢化が深刻

日常の声掛けや見守り

◇避難準備・勧告が出ても、
実際に避難している人はいない
「自宅に居る方が安全」「避難場所を知らない、遠い」

◇住民の個人情報が壁となっている

◇「災害時要援護者登録」　登録者０名
しかし…避難する際に支援を必要とする方は多い？

住民の災害に対する意識が低い
「自分たちの地域は大丈夫だろう？」

【愛知川ニュータウン自治会の取り組み】

◇2017年～18年　「災害、防災について話し合う場」
「地域の現状を知る」みんなでできることを検討

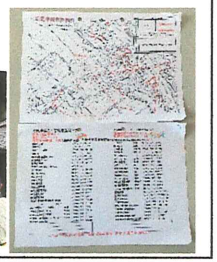
◇2019年　「協議の場から活動へ」
「災害に対する広報、啓発活動」
「住民参加の防災活動に向けて」
「啓発チラシの全戸配布」

【松尾寺南自治会の取り組み】

◇2017年　「災害、防災について話し合う場」
「地域の現状を知る」「見守りサポート会議で検討」

◇2018年　「協議の場から活動へ」
「危険箇所確認」「防災マップ作り」

◇2019年　「住民参加の防災活動」
「地震に備えるＤＶＤ鑑賞」



◇プロジェクトを進めていく上での課題・・・社協事務局主導から自治会主体の取り組みへ
要配慮者のことを考えた取り組みへ

「地域を守る災害支援プロジェクト」3 年間のまとめ

◇1 年目(平成 29 年度)

	目　標	取組み内容・活動状況	課　題
愛知川ニュータウン自治会	・話し合いの場を持つ ・災害時要配慮者を知る 避難行動要支援者登録の現状と活用について ・それぞれの地域の現状を知る 災害に対する意識が低い ・見守り活動から災害を考える	・災害時等における地域の現状を知る ・役員を中心に災害時の自治会内の様子など話し合いを持つことができた ・10 年後、20 年後のためにも、理解者・協力者を増やし、できることを進めていく必要性がある	・住民同士の付き合いの希薄化 ・住民の災害に対する意識が低い ・自主防災組織がない ・災害時の情報収集 ・防災行政無線の設置状況
松尾寺南自治会		・見守りサポート会議の場において、役員間で地域の課題等を共有(2 か月に 1 回) ・災害に特化することなく、高齢化、防犯対策、交通安全、鳥獣被害などを含めて課題を検討 ・役員メンバーの連絡体制の整備(SNSを活用)	・住民の災害に対する意識が低い ・役員の交代 ・災害以外の課題がある

◇2 年目(平成 30 年度)

	目　標	取組み内容・活動状況	課　題
愛知川ニュータウン自治会	・みんなでできることを話し合う ・災害時等における避難情報の周知 ・活動の協力者を増やす	・防災無線の設置状況に関するアンケート調査の実施に向けて検討を進めたが、実施まで至らなかった ・住民向けの啓発活動、方法について検討	・災害に対する意識が低い ・ハザードマップを知らない ・防災意識を高める方法
松尾寺南自治会	・協議の場から活動へ ・見守り活動から災害を考える ・情報、連絡体制の整備 ・危険箇所、防災マップの確認	・自治会内の危険箇所の確認 ・防災マップの作成(自治会館内に掲示) ・サポート会議にて、命のバトンの情報を活用した住民台帳の作成に向けて検討	・世帯状況の把握(少数の自治会なのである程度把握はできているがデータ化できていない) ・防災マップの活用方法 ・協力者を増やす(消防団、女性の参画)

◇3 年目（令和元年度）

	目　標	取組み内容・活動状況	課　題
愛知川ニュータウン自治会	・住民の防災意識の向上 ・広報、啓発活動 ・活動の協力者を増やす	・防災意識を持つきっかけ作りとしての防災に関する啓発チラシを全戸配布 ・自治会行事に合わせた住民参加の防災訓練（起震車体験）の検討（日程が合わず未実施）	・啓発チラシを見ていない人もいる ・住民が集まる機会が少ない ・啓発活動の継続
松尾寺南自治会	・防災マップの周知と啓発活動 ・避難訓練の実施 ・命のバトンを活用した世帯状況の把握	・防災マップと緊急連絡先一覧表を全戸配布 ・住民参加の防災訓練の実施 ・防犯対策として先進地視察研修の実施 ・交通安全対策として、飛び出し坊やの設置	・命のバトンを活用した住民台帳の整備について具体的に進んでいない

◇今後の取り組みに向けて

	4 年目の目標と取り組むべきこと	5 年目（最終年度）の目標（到達点）	課　題
プロジェクトの推進	・自治会活動として、主体的に取り組めるよう働きかけをしていく。 ・要配慮者の視点を重視した取り組みの検討を進める。 ・先進事例の紹介	・プロジェクトでの取り組み事例が、地域の防災活動に活用できるよう取り組んでいく。	・住民の理解と協力
愛知川ニュータウン自治会	・防災に関する啓発活動の継続 ・役員による訓練の実施 ・要配慮者を知る	・啓発活動の継続 ・住民台帳の作成に向けて検討 ・住民参加の防災活動を進める	・役員の交代がある ・協力者が増えない
松尾寺南自治会	・災害時における自治会としての行動マニュアル（警戒レベルに応じた役員・住民の行動）作成に向けて検討 ・訓練を継続して実施	・行動マニュアルに基づいた訓練の実施 ・住民台帳の整備	・役員メンバーの構成

◇プロジェクトを進めていく上での課題

・事務局主導から自治会主体の活動へ進めるためには時間が必要。
・要配慮者のことを考えた取り組みまでなかなか進まない。（福祉の視点）
・自治会役員の交代もあり、住民の協力者がなかなか増えない

5. プロジェクトにかかる社会福祉協議会事業・活動評価

地域のサロン活動

おたより見守り訪問事業

福祉関係機関地域連携会議

あいしょう福祉探偵団

わんぱくひろば

福祉ふれあい講座

第2次愛荘町地域福祉活動計画点検・評価表（3年間）

番号	基本計画名	取り組み内容	取り組み事業・活動名	5年後の実施目標（到達点）	29目標	29実績	30目標	30実績	31目標	31実績	3年間の成果	達成状況	備考
1	①見守りネットワークプロジェクト	a. 地域の見守り活動に参加する人を増やします	見守り報告会		—	—	年１回開催 参加予定者 ６０名	日時：平成30年11月13日（火） 19:00～21:00 場所：いきいきセンター 参加者数：計93名	年1回	福祉ふれあい講座第2講目として開催予定。 こどもを中心とした地域の見守り活動事例。	①参加 参加者数が目標よりも多かった。 ②魅力ある福祉活動 報告会の欠席者へ追加資料を求める自治会があった。 熱気ある場だったため、先進取り組みに対する問合わせがあった。 先進取組をモデルに取り組みを検討される自治会もあった。	◎ 引き続き取り組む	住民主体の地域福祉活動の広がりを進めていくために、町内の活動紹介を中心に引き続き実施する。
2	①見守りネットワークプロジェクト	b. みんなが出会い集まる場をつくります	ふれあいサロン支援		—	・ふれあいサロン活動助成 助成先：29自治会37カ所 ・地域応援助成 10自治会　10サロン	—	・ふれあいサロン活動助成 助成先：28自治会35カ所 ・地域応援助成 12自治会12サロン	—	・ふれあいサロン活動助成（予定） 助成先：27自治会34カ所 ・地域応援助成 15自治会15サロン	①参加 ふれあいサロン開催する自治会・箇所数が微増している。 １箇所あたりの開催回数が減少している。 運営するサロン活動者が減少してきた。 ②魅力ある福祉活動 いろいろな居場所は少しずつ拡がってきている。 継続した取り組みとなるよう内容を工夫して活動されている。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	多様な居場所の形が広がりつつあり多様な居場所づくりを支援する必要がある。また、現状の活動の課題に対応した支援方法を検討していく。
3	①見守りネットワークプロジェクト	c. 住民主体の見守り活動をさらに充実していきます	いきいき見守り訪問事業		—	○ 実施日：毎月第1・3木曜日 ○ 活動回数：年22回 ○ 登録者：15自治会65名	登録者見込み数75名　年間24回実施	実施日：毎月第1・3木曜日 活動回数：年21回 登録者：14自治会66名	登録者75名 年22回実施	実施日　毎月第1・3木曜日 登録者数　77名（14自治会） 活動回数　年間22回	①参加 登録者数は微増している。 自治会数に変動がない。 ②魅力ある福祉活動 見守りサポート会議から見守りの必要がある方として捉えて、地域福祉活動につながっている。 企業や福祉施設等もこの事業に参画（協賛）できるようにしている。 調理ボランティアの高齢化し、今後の活動に影響が出ることが予測される。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	地域の中で継続した見守り活動が推進できるように、継続性のある実施方法などを検討していく。
4	①見守りネットワークプロジェクト	c. 住民主体の見守り活動をさらに充実していきます	おたより見守り訪問事業		—	豊満新興住宅地 平成29年6月26・28・29日 計131件訪問、手渡しは73件（55.7%）。アンケート提出は26件（回収率19.8%）	新興住宅地域2カ所を新たに訪問予定	○ 豊満新興住宅地 平成30年8月3・13・17日 計165件訪問、手渡しは77件（46.6%）。 ○ メイタウン島川地区 平成30年11月28日 計 24 件訪問、手渡しは14件（58.3%）	2自治会	メイタウン島川・川原新興住宅地区で予定。（1月～3月）	①参加 自治会数は変動していない。 新興住宅地に取り組みがつながっている。 ②魅力ある福祉活動 民生委員児童委員の訪問活動に主任児童委員と社協職員で協働した取り組みとなっている。 継続することにより、担当民生委員と住民との顔見知りになってきた。 住民に子育て関連情報を直接提供できる。	△事業そのものの見直し	新興住宅地を中心とした見守り活動の一つの方法として、自治会で推進している見守りサポート会議と統合し推進する。
5	①見守りネットワークプロジェクト	d。地域みんなのつながりを広めたネットワークをつくります	見守りサポート会議		—	20自治会	—	24自治会	—	実施自治会　29自治会 ・見守りに関する勉強会（川原・軽野・蚊野・沖）	①参加 町内の半数の自治会に達し、開催箇所数が増加している。 開催回数の増加傾向にある。 ②魅力ある福祉活動 区長（自治会）や民生委員児童委員に開催の促進を図っている。 身近な地域の福祉課題の対応にむけた検討の場になっている。 新たな福祉活動者の発掘・育成のきっかけとなる場となっている。 行政（包括支援センター・まちづくり協働課）と住民がつながって話し合う場となっている。	◎ 引き続き取り組む	自治会で主体的に場を設けていただけるよう、継続的な関りと新規開拓を行う。
6	②くらしサポートプロジェクト	a. 日常の困りごとに素早く対応できるしくみをつくります	心配ごと相談所		—	開所日時：毎月第1～4水曜日 13:30～15:30 開所日数：44日 相談件数：　9件	年間24回	開所日数：46日 相談件数：19件	年24回	開所日数：45日 相談件数：11件	①参加 相談員として民生委員児童委員が参画。 民生委員活動と地域の相談窓口が溶け込んだものとなっているが効果は不明。 社協一般相談支援が心配ごと相談として一体となっている。 ②魅力ある福祉活動 住民自身が相談窓口を選択して相談している。 出口づくりと相談ごとに対する中間支援の役割が求められている。	△事業そのものの見直し	社協の総合相談事業としての位置づけと民生委員児童委員の相談支援の場としての役割などを踏まえて、相談所の設置について検討を行う。

第２次愛荘町地域福祉活動計画点検・評価表（3年間）

番号	基本計画名	取り組み内容	取り組み事業・活動名	5年後の実施目標（到達点）	29目標	29実績	30目標	30実績	31目標	31実績	3年間の成果	達成状況	備考
7	②くらしサポートプロジェクト	b. 一人ひとりの状況に合わせた地域支援のしくみをつくります	福祉機関地域連携会議		—	—	湖東圏域のなんでも相談会へ参画　年3回	・湖東圏域のなんでも相談会へ参画　年3回 ・連携会議の検討	・連携会議の開催	・湖東圏域のなんでも相談会へ参画　年3回 ・愛荘町福祉関係機関地域連携会議 年3回開催（予定）	①参加 相談支援専門員と介護支援専門員が参加してもらえる場をつくった。 包括支援センター・基幹相談支援センター・保健師も参画してもらえた。 ②魅力ある福祉活動 相談機関と住民がつながることをテーマに話し合いを始められた。	◎　引き続き取り組む	他分野の専門職が分野を超えて交流し、情報交換や制度のはざまの取り組みなどを検討する場として引き続き取り組む。
8	②くらしサポートプロジェクト	C. 不安や困りごとを抱える方の居場所をつくります	わんぱくひろば		—	日時：毎週月・水・木曜日 9:00～15:00 場所：福祉センター愛の郷 第1・3木曜日…わんぱくサロン 第2・4木曜日…わんぱくカフェ 開所日数　143日 延参加者数　5,740人 延ボランティア数　341人	毎週３日開催 参加者見込み数5,000人	日時：毎週月・水・木曜日 9:00～15:00 場所：福祉センター愛の郷 第2・4木曜日…わんぱくカフェ 開所日数　141日 延参加者数　5,402人 延ボランティア数　282人	年１４０回 参加者数5,000人	日時：毎週月・水・木曜日 9:00～15:00 場所：福祉センター愛の郷 第2・4木曜日…わんぱくカフェ 開所日数　139日（見込み） 延参加者数　3,549人（11月末時点） 延ボランティア数　116人（11月末時点）	①参加 助産師・臨床心理士・歯科衛生士・保健師に参画してもらった。 事業ボランティアが減少してきた。 対象家庭の参加者も減少してきた。 ②魅力ある福祉活動 小規模な場で保育士の関わりのなか、相談対応が行えている。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	第2期子ども子育て計画に基づいて内容と方法の見直し
9	③ボランティアセンタープロジェクト	a. 参加のきっかけをつくります	チョボラ体験事業		—	①夏休みボランティア体験 内容：夏休み期間中に、学生が気軽に・楽しく・ちょこっと参加できるボランティア活動を実施。 ★子育て支援ボランティア体験 3日間開催。延べ11名参加。 ★読み聞かせボランティア体験 2名参加。 ★かき氷訪問ボランティア 4名参加。 ★チョボラパーティー 6名参加。 参加合計：23名 ②サンタクロース訪問（チョボラ体験） 実施：平成29年12月21日（木） 18：00～20：00 内容：ボランティアにサンタクロースになっていただき 応募のあったご家庭を訪 問し子どもたちへプレゼ ントを渡す。 訪問先：18世帯【愛知川9世帯、 秦荘9世帯】 ボランティア：6名	チョボラ体験 2回　参加見込み２０名	①夏休みボランティア体験 対象：愛荘町民(全年齢対象) 内容：夏休みの期間に、ボランティアに興味のある方々や学生等が気軽に・楽しく・ちょこっと参加できるボランティア活動を実施。 ★子育て支援ボランティア体験 延べ16名参加。 ★かき氷訪問ボランティア 12名参加。 ★調理ボランティア体験 4名参加。 ★ジャグリング体験 延べ13名参加。 参加延べ人数：45名 ②サンタクロース訪問 実施：平成30年12月21日（金）　ボランティア：6名	年2回 参加者数２０人	①夏休みボランティア体験 対象：愛荘町民(小学3年生以上) 内容：夏休みの期間に、ボランティアに興味のある方々や学生等が気軽に・楽しく・ちょこっと参加できるボランティア活動を実施。 ★子育て支援ボランティア体験 延べ16名参加。 ★調理ボランティア体験 13名参加。 ★芸能ボラ体験 延べ11名参加。 参加延べ人数：40名 ★チョボラパーティー 21名参加。 ②サンタクロース訪問 実施：令和元年12月23日（月） ボランティア：7名	①参加 参加者が増加している。 体験受け入れ協力者（ボランティアグループ・福祉団体・福祉施設）が増加している。 ②魅力ある福祉活動 「遊び」や「趣味活動」の要素を取り入れて、間接的に福祉やボランティアの体験にしている。 映像に残すことに心がけている。 体験映像や体験者自身を住民が集まる場に披露している。 20代～50代をターゲットにした取り組みが少ない。 小学生のみとなり、中高生対象の取り組みがない状態。	◎　引き続き取り組む	きっかけづくりとして引き続き「楽しい」活動を中心に、ボランティアに関わる人を増やしていく。
10	③ボランティアセンタープロジェクト	b. 活動の場を広めます	ボランティアカフェ		—	【第１回】 日　時：平成29年7月25日 参加者：19名（施設関係者1名、ボランティア18名） 【第2回】 日　時：平成29年10月19日 参加者：32名（施設関係者5名、ボランティア27名） 【第3回】 日　時：平成29年12月15日 参加者：21名（施設関係者3名、ボランティア18名） 【第4回】 日　時：平成30年2月26日 参加者：17名（施設関係者3名、ボランティア14名）	ボランティアカフェの開催 年5回　参加見込み数１００名	年5回開催 ① 6月26日25名参加（内施設関係者4名） ② 8月21日（火）27名参加（内施設関係者3名） ③10月18日（火）15名参加（内施設関係者4名） ④ 12月4日19名参加（内施設関係者3名） ⑤ 2月26日37名参加（内施設関係者1名）	年4回 参加者数100名	年4回開催 ① 6月21日20名参加（内施設関係者1名） ② 8月20日39名参加（内施設関係者1名） ③12月4日28名参加（内施設関係者1名） ④　月　日　名参加（内施設関係者　名）	①参加 参加者数の増加傾向にある。 主体的な参加者は減少している。 参加者が固定化されてきた。 施設（受入機関）の参加者が減少している。 ②魅力ある福祉活動 ボランティアグループの活動紹介をおこなった。 レクリエーションの研修の場となった。 ボランティア同士の顔見知りになったり、交流の場となった。 交流内容の検討が必要。	△事業そのものの見直し	参加対象者の求めている場とはどのようなものか？場の目的や内容を見直す。
11	③ボランティアセンタープロジェクト	c. ボランティアをつなぐ・調整する場を充実します	ボランティアコーディネート		—	相談件数：93件（昨年度89件）内、コーディネート72 ○ボランティア登録者数 個人ボランティア443名 ボランティアグループ41G グループ員457名 災害支援ボランティア16名	コーディネート見込み件数　７０件	○ 相談件数：88件（昨年度93件）内、コーディネート53 ○ボランティア登録者数 個人ボランティア496名 ボランティアグループ45G グループ員496名 災害支援ボランティア20名	90件	○ 相談件数：83件（昨年度88件）内、コーディネート46 ○ボランティア登録者数 個人ボランティア511名 ボランティアグループ47G グループ員523名 災害支援ボランティア21名	①参加 ボランティア登録者数の増加した。 ボランティアグループの登録数の増加した。 コーディネート相談は、の概ねレクリエーションの調整する件数が増加。 相談者は自治会の役員・施設職員がほとんど占めている。 中には、町外に所在する施設からの相談が入ることもある。 ボランティアニーズにレクリエーション・芸能以外の相談がない。 ②魅力ある福祉活動 生活支援等のニーズが入ってこないことが気になる。 福祉相談機関とのつながりが必要なのかもしれない。 ボランティア活動調査を定期的に実施できている。 ボランティア活動紹介の冊子を定期的に発行している。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	ボランティアをやってほしいニーズをどのように集め、新しい活動づくりを広めていくのか等の検討を進める。

番号	基本計画名	取り組み内容	取り組み事業・活動名	5年後の実施目標（到達点）	29目標	29実績	30目標	30実績	31目標	31実績	3年間の成果	達成状況	備考
12	③ボランティアセンタープロジェクト	d. ボランティア情報などの広場をつくります	ボランティアセンター通信の発行		―	ボランティアだよりの発送 4回(8月、9月、12月、2月)	年4回発行	○ ボランティアだよりの発送 4回(5月、7月、9月、2月)	年4回発行	○ ボランティアだよりの発送 4回(5月、7月、11月、2月)	①参加 センター通信をみて、活動に参加された方がおられた。 ②魅力ある福祉活動 定期的に情報発信ができた。 毎号、全戸回覧をおこなった。 ホームページに毎号アップしている。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	ボランティアセンターやボランティア活動をどのように伝えるのか、啓発方法について検討をおこなう。
13	④福祉教育プロジェクト	a. 子どもたちが福祉に興味を持ち、理解する機会をつくります	学校における福祉教育コーディネート		―	★秦荘東小学校 【3年生2クラス(49名)】 平成30年3月9日 内容:視覚障がいについて 【4年生2クラス(47名)】 平成29年10月5日 内容:視覚障がいについての学習・アイマスク体験 【5年生2クラス(50名)】 平成30年2月9日　内容:車イス体験 ★秦荘西小学校 【4年生2クラス(51名)】 平成29年11月2日 内容:アイマスク・車イス体験 日時:平成29年11月7日 内容:聴覚障がいについての学習・手話体験 日時:平成29年10月16日 内容:視覚障がいについての学習・点字体験 ★秦荘中学校 【2年生2クラス(61名)】 平成30年1月18日 内容:聴覚障がいについての学習・手話体験 ★愛知高等学校 【2年生4クラス116名】 平成29年12月13日・18日・19日・20日 内容:施設見学(ふれあい共同作業所愛の郷デイサービス、わんぱくひろば)、DVD鑑賞(災害ボランティアについて)	町内各小学校・中学校・高校の福祉教育の取り組み支援	★秦荘東小学校【3年生2クラス(37名)】 平成31年2月25日 内容:聴覚障がいについての学習・手話体験 【4年生2クラス(47名)】 平成30年9月27日 内容:視覚障がいについての学習・アイマスク体験 平成30年10月18日 内容:視覚障がいについての学習・点字体験 ★秦荘西小学校【4年生2クラス(49名)】 平成30年8月29日　内容:車イス体験(基本) 平成30年7月6日・平成30年7月10日　内容:・車イス体験 ★愛知川小学校【4年生85名】 平成30年10月24日 内容:視覚障がいについての学習・点字体験 ★愛知川東小学校【4年生2クラス(66名)】 平成30年5月7日 内容:車イス体験(基本)　講師:社協職員 ②日時:平成30年5月21日　内容:車イス体験 平成30年5月28日 内容:車イス体験・平和堂、踏切での体験 平成31年1月29日 内容:視覚障がいについての学習・アイマスク体験 平成31年2月4日(月) 内容:視覚障がいについての学習・盲導犬について 平成31年2月27日 内容:視覚障がい体験・学習後のまとめ・発表 ★えちっ子クラブ(愛知川東小学校区域内・学童保育所) 【1～2年生(46名)】 平成30年8月8日　内容:視覚障がいについての学習 ★秦荘中学校 【2年生3クラス(70名)】 平成31年1月28日　内容:聴覚障がいの学習・手話体験 ★愛知高等学校【2年生4クラス120名】 平成30年12月10日・12日・18日・19日	町内各小学校・中学校・高校の福祉教育の取り組み支援	1. えちっ子クラブ ○令和元年8月27日(火)14:00 ～ 15:30 対象:1年生(24名)、2年生(19名)、3年生(12名)　計:55名 内容:①視覚障がいについて　②防災について 2. 愛知川小学校 ○令和元年10月24日(水)13:40～15:15 対象:4年生　計:34名　内容:点字体験 3. 愛知川小学校 ○令和元年8月12日(水)8:50～10:25、10:40～12:15 対象:4年生　計:82名　内容:車いす自操・介助の基礎について ○令和元年8月14日(金) 対象:4年生　計:82名　内容:車いす体験 ○令和元年8月28日(水 対象:4年生　計:82名 内容:車いす自操・介助体験 ○令和元年11月1日(金) 対象:4年生　計:82名　内容:視覚障害・ガイドヘルプ体験 ○令和元年11月8日(金)13:40～15:15 対象:4年生　計:82名　内容:点字体験 4. 秦荘西小学校 ○令和元年7月 1日(月) 対象:4年生　計:50名　内容:手話体験 ○令和元年10月 3日(木) 対象:4年生　計:50名　内容:視覚障害・盲導犬について ○令和元年10月18日(金) 対象:4年生　計:50名　内容:車いす自操・介助の基礎について 5. 秦荘東小学校 ○令和元年9月30日(月) 対象:4年生:計:38名　内容:視覚障害・ガイドヘルプ体験 ○令和元年10月31日(木) 対象:4年生　計:38名　内容:点字体験 ○令和2年1月29日(水)　対象:3年生　内容 手話体験 6. 秦荘中学校 ○令和2年1月16日(木　内容:手話体験 7. 愛知高校 ○12月6日(金) 12月9日(月) 12月11日(水) 12月16日(月) 対象:計107名　内容:社会福祉施設見学他	①参加 活動に対する相談件数が増加した。 依頼される校数が増加している。 ②魅力ある福祉活動 福祉教育メニューの冊子を作成し、各学校に訪問の上提供している。 「福祉」を深められる内容になってきた。 局内で取り組む意識が向上し、丁寧な対応ができるようになってきた。	◎ 引き続き取り組む	各学校での実施や先生との協議など丁寧な対応を引き続き進める。
14	④福祉教育プロジェクト	a. 子どもたちが福祉に興味を持ち、理解する機会をつくります	あいしょう福祉探偵団		―	愛の郷サマーナイトキャンプ 実施日:平成29年8月18日(金) 参加者数8名	年1回　定員20名	○ 実施日:平成30年7月31日(火)・8月1日(水) ○ 参加者数20名	年1回 20人	○令和元年8月8日(木)13:00～17:00 参加者:23名　※うち1名体調不良 内容:防災学習、昔のくらし体験 ○令和元年8月9日(金)9:00～16:00 参加者:22名 内容:防災学習、火おこし体験	①参加 参加者数が増加したものの定員を定めている。 ②魅力ある福祉活動 密度の高い「福祉」を学ぶきっかけの場として方向転換をおこなった。 「遊び」を通した福祉を学ぶところとして定着を図っている。	△事業そのものの見直し	他の事業との整合性を図る。
15	④福祉教育プロジェクト	b. 地域で福祉を学ぶ場をつくります	地域における福祉教育コーディネート		―	○ 地域での福祉学習 自治会や老人会で、地域福祉の啓発学習を実施。(沓掛・市・石橋・長野新町)	年間10回実施	自治会や老人会で、地域福祉の 啓発学習を実施。 ・島川・苅間・愛知川	年10回	○令和元年10月20日(日)13:30 内容:一般的な法律問題の勉強会 依頼先:村西司法書士	①参加 相談件数が少ない。 ②魅力ある福祉活動 ほとんどPRをしていない。 見守りサポート会議を中心とした取り組みからの対応をしている。 社協で対応できるメニューの確立が必要である。	○ 継続を前提にして内容や方法を見直す	どのような形で取り組みを進めるのか、啓発方法なども含めて検討を進める。
16	④福祉教育プロジェクト	b. 地域で福祉を学ぶ場をつくります	福祉ふれあい講座		―	日　時:平成29年11月23日(木祝)10:00～13:00頃 場　所:いきいきセンター テーマ:「みんなでワクワクまなぼさい」 講　師:たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」 太田様・松田様 参加者:大人14名・子21名	年1回　定員50名	第1講座 日時:平成30年10月26日(金)10:00～12:00 場所:福祉センター愛の郷 参加者数:計104名(大人68名・子ども36名) 内容:「命の誕生って奇跡。奇跡のあゆみを知って、命の大切さを感じよう」 講師:りんくう総合医療センター 荻田 和秀 様 第2講座 日時:平成30年11月13日(火) 19:00～21:00 場所:いきいきセンター 参加者数:計93名 見守り報告会	年1回 50人	○令和2年2月15日(土)13:30～15:00(※実施予定) 内容:不登校経験のある子どもたちを理解する為にできること ○令和2年2月27日(木)19:00～21:00(＊実施予定) 内容:地域で行う子どもたちへの見守り活動の事例報告	①参加 参加者数が増加したものの、安定したものではない。 ②魅力ある福祉活動 「見守り報告会」と実施したことにより、住民同士の学び合う講座として取り組んだ。 町内の活動を知りたいというアンケート結果がある。	△事業そのものの見直し	他の事業との整合性を図る。
17	④福祉教育プロジェクト	c. 不安や困りごとを抱える方たちとお互いに理解し合う場をつくります			―	―	―	―	―		①参加 ②魅力ある福祉活動		